

悪役のスーツアクターが、車椅子の息子に「正義のキック」を教える話

スワンキック

リライト 大岡俊彦

登場人物表

黒野（40）

スーツアクター。
悪の「ブラックレイヴン」役。

ケンタ（10）

車椅子の、黒野の息子。
手術で足は治ったが、うまく
動かなくて、リハビリ中。

白鳥（25）

スーツアクター、黒野の後輩。
正義の「ホワイトスワン」役。

監督（50）

ヒーローショーの監督。

医者

ケンタのリハビリ担当。

○道場

エアマットを敷いて、黒野（40）は空中回転しながら吹っ飛ばす練習をしている。

黒野 「ぐわッ！」

黒野 「ぐッ」

黒野 「ぐふッ……」

全部殴られたり、蹴られる練習だ。

そこへ車椅子の息子、ケンタ（10）がやって来る。

ケンタ 「お父さん」

黒野 「何？」

ケンタ 「授業参観でさ、『お父さんのしごと』って作文書かないといけないんだけど」

黒野 「……うん」

ケンタ 「お父さんはホワイトスワン役って書いていい？」

白いホワイトスワン（正義）と、黒いブラックレイヴン（悪）の、スーツとヘルメットが置いてある。

黒野 「スワンは言い過ぎだろ。戦闘員役でいいよ」

ケンタ 「お父さんが悪者って思われたくないんだ」

黒野 「あんなの、全部演技だぞ？」

ケンタ 「俺は分ってるよ。でも他の子はそうじゃない。お父さんが悪の帝王なら、俺は悪のプリンスになっちゃう」

黒野 「うーん、しょうがねえな」

黒野、ホワイトスワンのメットをコツンと殴る。

○授業参観

黒板に「お父さんのしごと」とある。

車椅子で前に出て、作文を読むケンタ。

ケンタ 「お父さんはスーツアクターです。ホワイトスワンはカガミリュウジが変身した姿ですが、変身後のスワンの中に入ってい

るのが、なんとお父さんなんです！ 何故なら、リュウジの人は武術が下手だからです。お父さんは強くて、だからスワンの中に入ってるんです」

皆、拍手。

授業参観に来ている黒野、バツが悪そうに、皆に会釈。

○病院のリハビリルーム

車椅子から立ち上がり、手すりにつかまりながら歩くケンタ。

すぐく痛そう。途中で休み、へばってしまう。

遠くからそれを見る医者と黒野。

医者 「手術はうまく行きましたが、ここからが長いと思います。気力と根気が鍵かと」

黒野 「気力。それでなんとかなるものですか？」

医者 「モチベーション、といっても良いです」

黒野 「……」

○道場

黒野 「ケンタ、スワンキック教えてやるよ」
ケンタ「ホントに？ あれは威力7万8千で、使い手の足にすらダメージを負う危険技術でしょ？」

黒野、構える。

黒野 「実はこの技、俺が考えたんだ。監督に採用してもらったんだぜ？」

ケンタ「そうだったの？」

黒野、サンドバッグにスワンキック。
サンドバッグは壁まで吹き飛ばす。

黒野 「すげえ！ 俺も出来るかな？」

ケンタ「構えてみる」

ケンタ、必死で車椅子から立ち上がり、プルプルしながら構える。

黒野 「まず前蹴り」

ケンタ、必死でやるが、最後にこけて
しまう。

黒野 「……やめとくか？」

ケンタ、必死で首を振り、立ち上がる。

○リハビリルーム

ケンタ、構えて、前蹴り、戻る。

よれよれしながらも頑張る。

影から見守る黒野。

○楽屋

監督（50）に、頼み込む黒野。

監督 「そんなこと言っても、お前白鳥と全然
体格違うだろ」

華奢なスワンのスーツを着こんだ、ス
ワン役の白鳥（25）とガッシリ型の
黒野。

黒野 「頼むよう。息子が来るんだよ！一
回だけ、オリジナルのスワンキックを見せ
てやりたいんだよ！」

白鳥 「……スーツ破れたら弁償っすよ」

黒野 「白鳥イ！（手を握る）」

○ヒーローショー

車椅子のケンタが来ている。

ガッシリ型のスワンが、華奢なレイヴ
ンと闘っている。

しかし噛み合ってなくて、どこかぎこ
ちない。

ケンタ 「あー……俺にいい所見せようとして
んな……バレバレだろお父さん」

スワン（黒野）「必殺！ スワンキック！」
型通りにレイヴンに決まる。

だがレイヴンは全然吹き飛ばさない。

ケンタ 「……あれ？」

ざわっとなる観客席。

スワン（黒野）「（小声で）白鳥！ もっと

派手に飛ばないと！」
レイヴン（白鳥）「（小声で）無理っす！
スワンキックは黒野さんの受けで初めて成
立するんす！」
スワン（黒野）「（小声で）そんなの無理じ
ゃん！ やべえよ！ 客席引いてるよ！」
黒野、咄嗟にヘルメットを脱ぐ。
ええっ？ と客席ざわつく。
黒野 「ワハハ！ これはレイヴンの作戦
だったのだ！ 俺は偽スワン！ 本物のス
ワンは偽レイヴンにさせられていたのだ！
本物かどうかは、スワンキックで分るだろ
う！ 打ってみろスワンキックを！」
レイヴン、黒野にスワンキック。
黒野、派手に空中回転して吹き飛ばす。
ショーは拍手喝采。

○道場

白鳥が一人稽古。
ヘルメットなしで、スワンのスーツだ
け着ている。
そこに車椅子のケンタがやって来る。
白鳥 「やあ。こないだはひどかったよ。ほ
ら、やっぱスーツ伸びちゃったよ」
尻や肩の伸びたところを引っ張る。
ケンタ 「ねえ、スワンキックをサンドバッグ
に打ってみて」
白鳥 「なんで？」
ケンタ 「こないだのお父さんのスワンキック、
全然強そうに見えなかった。役が入れ替わ
っただけなのに」
白鳥 「ほう。いい所に気づいたね」
白鳥はサンドバッグにスワンキック。
しかし全然サンドバッグは揺れない。
白鳥 「スワンキックは、受けのクロさんの
派手な吹っ飛びがあつて、初めてスワンキ
ックになるんだ」

× × ×
回想。

黒野が蹴って白鳥が受けた、偽のスワ
ンキック。全然威力ないように見える。
白鳥が蹴って黒野が受けた、本当のス
ワンキック。いつもの迫力。
一人で道場で吹き飛ぶ練習をしている
黒野。

× × ×

ケンタ「……」
白鳥「俺の蹴りは威力自体は全然ない。で
も威力があるように見えるだろ？ それ
が演技なんだ」

ケンタ「演技」
白鳥「むしろ筋肉つけたらスピード落ちる
から、俺はメシを半分しか食べない。それ
でこのスピード体型をつくってる」

ケンタ「……」

そこへ黒野がやって来る。

黒野「オウ白鳥。こないだはすまんかった
な。メシ奢るよ」

○ファミレス

がつがつ食う黒野。

半ライスの白鳥。

黒野「お前もつと食わんと持たんだろ」

自分のライスを半分あげようとする。

それをケンタが止める。

ケンタ「白鳥さんは、自分の意志でご飯を食
べないんだ」

黒野「なんで？」

ケンタ「演技のために」

黒野「……（白鳥を見る）」

白鳥「……（うなづく）」

黒野「演技か。俺の『痛くないけど、いて
ええええ！』も、演技だぜ」

殴られる演技。

ケンタ「痛いけど、痛くない、のも？」

黒野「うん。受け身失敗した時とかな」

ケンタ「……」

○ヒーローショー

ケンタが車椅子で見ている。
戦うスワンとレイヴン。

× × ×
回想、楽屋。

台本を読み終えた黒野。

黒野 「マジすか？」

監督 「マンネリ台本に飽きてたんだ。こないだのお前のアドリブのさ、入れ替え作戦面白かったから、別のやつを考えてきたよ」

白鳥 「子供に飛び入りさせる」

監督 「選定は、お前らに任せる」

黒野 「じゃあ一人。……候補がいます」

× × ×

レイヴン（黒野）「おりゃあ！」

レイヴン、スワンを追い詰める。

スワン、右脚を抱えて痛がる。

スワン（白鳥）「うおお！ 右脚が！ 右脚が！」

レイヴン「絶体絶命だな、スワン！ これで

必殺スワンキックは打てまい！」

スワン「くそう！ スワンキックさえあれば

……！ そうだ！ 誰かこの場に、スワン

キックを打てる奴はいるか？ 子供たち！

スワンキックが打てるキミは、誰だ？」

ハイハイハイ！ と子供たち、手を挙げる。

レイヴン、ケンタを見る。

ケンタ、手を挙げる。

スワン「車椅子のキミ、出来るのか？」

ケンタ、うなづいて立ち上がる。

レイヴン「ハッ！ 俺様も舐められたもんだ

な！ 車椅子に座りっぱなしの弱虫野郎に、

俺様がやられるわけねえだろ！」

スワン「キミ、名前は？」

ケンタ「ケンタ」

スワン「よしみんな！ ケンタを応援しよう

！ ケーントタ！ ケーントタ！」

観客 「ケーントタ！ ケーントタ！」

ケンタ、足を震わせながらも必死で歩く。一回転びそうになるが耐える。

ステージの階段を一段一段上る。

レイヴン「足ガクガクじゃねえか！ 痛えんだろ？」

ケンタ、首を振る。

レイヴン「痛えんだろ？」

ケンタ、静かに構える。

ケンタ「スワンキック！」

ケンタ、スワンキック。

レイヴン、いつもより派手に吹っ飛ぶ。

観客、大喝采。

× × ×

回想。授業参観で作文を読む。

ケンタ「僕のお父さんはヒーローです。誰も知らないけれど、本当のヒーローです」

× × ×

レイヴン、地に伏せたまま、ヘルメツ

トの中で笑う。

ケンタ、笑う。

(終)